園芸栽培汎論を受講している学生 25 人を対象として，最寄りのスーパーで販売されている輸入野菜と国産野菜の種類及び価格調査をレポート課題として調査を行いました。調査期間は 4 月 28 日～ 5 月 7 日です。
岐阜大学応用生物科学部学生の出身地は，岐阜県と愛知県が 90 ％ですので，それらの地域を中心とした調査結果となっています。

◎調査店舗で最も一般的に販売されていた輸入野菜は，ブロッコリー（アメリカ），アスパラガス（タイ），ニンニク（中国），パプリカ（韓国），レモン（アメリカ），ショウガ（中国）などで，ほとんどの店舗で販売されていました。
◎ 2001 年のセーフガードが発動された中国産のネギとシイタケは 1/3 程度の店舗での販売に留まっていました。
◎国産のものはありませんが，オレンジ，キウイ，マンゴーもほとんどの店舗で販売されていました。

◎ブロッコリーは多くの店舗で輸入と国産が並列して販売されていました。同様に，アスパラガス，オクラ，ゴボウ，シイタケ，ショウガ，トウモロコシ，ニンニク，ネギ，レモンなども多くの店舗で国産と輸入品が並列して店頭で販売されていました。

◎輸入品と国産品の価格差は，平均で 1.8 倍ですが，ニンニクは国産が中国産の 7 倍，ラッキョウも中国産の 3.3 倍と高く，ゴボウ及びネギも中国産に対して 1.9 倍となっていました。
◎価格差が見られなかったものとして，タマネギ，アスパラガス，キウイがありました。
◎パプリカは，国産の事例が少ないものの，韓国産は国産より高い価格で販売されていました。

● 1999 年から 2002 年にかけて園芸栽培汎論を担当していた時に同様の調査を行っています。この時の実施時期が 5 月下旬と異なっているために少々の違いはありますが，類似した傾向が認められます。ただし，2001 年以降は国産品に対して輸入品が安くなっていますが，1999 年では逆に輸入品の方が高い結果となっています。8 年前の記憶は残っていませんが，昔は輸入品の方が高かった時代があったんですねぇ・・・。

●今回の調査では 2002 年に比べて輸入国の数が少なかったのですが品目数は多くなっており，品目数ではセーフガードが発令された 2001 年と同等のレベルまで増加していました。特に中国からの品目数は，2002 年にはセーフガードの影響で減少していますが，今年の調査ではセーフガード発動時の 2001 年の数に戻っています。

全般的にみて，輸入品は国産品に比べて価格が安く販売されていますが，輸入品と国産品が同じ店頭で販売されている事例が多く，消費者は両者を比較しながら購入していることが推測されます。